

審議会等の会議結果報告

| | |
|------------|---|
| 1. 会 議 名 | 第 32 回 松阪市政推進会議 |
| 2. 開 催 日 時 | 令和 6 年 3 月 22 日 (金) 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分 |
| 3. 開 催 場 所 | 松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室 |
| 4. 出席者氏名 | <p>出席委員：岡山慶子委員、酒井由美委員、高島信彦委員、西川明樹委員、松浦信男委員、三井高輝委員、村林守委員、渡邊幸香委員</p> <p>欠席委員：梅村光久委員、小野崎耕平委員、門暉代司委員、西村訓弘委員、平岡直人委員、山端裕子委員、米山哲司委員</p> <p>事務局：竹上市長、近田副市長、永作副市長、藤木企画振興部長、川上企画振興部経営企画課長、小川企画振興部経営企画課政策経営担当主幹、西山企画振興部経営企画課政策経営係長</p> |
| 5. 公開及び非公開 | 公開 |
| 6. 傍 聴 者 数 | 1 人 (内、報道関係 1 社) |
| 7. 担 当 | 松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp |

・議事録は別紙のとおり

第 32 回 松阪市政推進会議 議事録

1. 日 時 令和 6 年 3 月 22 日（金） 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分
2. 場 所 松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
3. 出席者 岡山慶子委員、酒井由美委員、高島信彦委員、西川明樹委員、松浦信男委員、三井高輝委員、村林守委員、渡邊幸香委員

※欠席者 梅村光久委員、小野崎耕平委員、門 暉代司委員、西村訓弘委員、平岡直人委員、山端裕子委員、米山哲司委員

〔事務局〕竹上市長、近田副市長、永作副市長、藤木企画振興部長、川上企画振興部経営企画課長、小川企画振興部経営企画課政策経営担当主幹、西山企画振興部経営企画課政策経営係長

資料

- ・資料 1 令和 6 年度の事業について
- ・資料 2 市民意識調査の行政課題について
- ・資料 3 適正な職員配置について

1 市長あいさつ

改めまして、皆さんこんにちは。お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。今年に入り、宝塚 1 号古墳から出土した 278 点の埴輪が国宝に指定されました。中でも有名なものは船形埴輪であり、24 年前に原形に近い状態で出土しました。時間はかかってしまいましたが、とても喜ばしいニュースです。

今日は皆さまに、三井高利創業物語をお配りしました。三井銀行の 0B さんが執筆した本で、元々は三井銀行京都支店の保養所を利用された方に、三井高利生誕 400 年に合わせて、その年に泊まっていた方にプレゼントとしてお渡ししていました。偶然私が、その本を目にすることがあり、非常に読みやすく、小学校の高学年から読めるのではないかと思い、執筆していただいた方々に再販をお願いして一部修正の上、2,000 部を図書館や学校に配布させていただきました。

本日のテーマは、「令和 6 年度の事業について」「市民意識調査の行政課題について」「適正な職員配置について」の 3 つで、さまざまなご意見をいただけたらと思います。

前回の会議から大きく変わったことは、やはり能登半島地震で、松阪市の職員も避難所の運営に、1 週間ずつ 2 人交代で行っており、松阪市においても避難所の運営マニュアルを見直していく必要があると考えております。

次に、全国的に有名になったのが、松阪市の選定療養費に関する事で、テレビで連日報道されました。これまでも三基幹病院に紹介状なしで受診した場合は、選定療養費として 7,700 円を徴収していましたが救急の患者については対象外としておりました。しかし、昨年救急搬送件数が 16,000 件を超えており、松阪市には救急車が 13 台しかないため、このままでは助かる命も助からない、早期に治療を開始出来なくなる懸念もあることから、三基幹病院や医師会、多気郡 3 町と 2 年間協議・調査等を行い、救急車利用であっても、入院に至らなかった軽症の方については選定療養費の対象とする結論に至ったというお話です。

それでは、ご挨拶はこの辺までとしまして、協議事項に移りたいと思いますので、よろしくお願いたします。

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

○ 会議の公開・非公開の決定

会長)

それでは皆さん、改めましてこんにちは。本日が 32 回目の会議で今年度最後の会議になります。

議題としては3つありますので、市長さんからお話しを聞いていただき、どの議題からでも良いので、ご意見をお聞きしていこうと考えております。今日も活発なご議論をいただきますようお願いいたします。それでは本日も公開で開催したいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

会長)

ありがとうございます。では本日も公開で開催したいと思います。

2 協議事項

- 1) 「令和6年度の事業について」
- 2) 「市民意識調査の行政課題について」
- 3) 「適正な職員配置について」

市長)

【資料1】は当初予算の主要事業で、今年の予算は「育てる」「守る」「伸ばす」に「再定義」を加えた4つの視点からの予算になります。

まずは、こども家庭センターを新設しまして、不妊治療から学校入学まで途切れなく支援を行っていきます。その他、ひとり親の重点対策で、特に松阪市は離婚対策に力を入れており、今回、離婚前後親支援講座の開催などやっていこうと考えております。また一時保護など一定数ありますが、一時保護を解除後に預かってくれる施設も必要となりますので、そういった居場所を作っていこうという事業です。

次は、18歳年度末まで医療費の完全無償化、私が2期目の時に始めたワンモアベビー支援、3人目以降の給食費無償化についての事業になります。

学童保育では、長期休暇だけ預かって欲しいというニーズが多いので、そういった施設を作ろうと令和5年から始めていたのですが、募集時期が遅かったため、あまり応募がありませんでした。今年は、昨年12月に周知をしまして、今年1月から180名定員で募集をかけたところ、178名の応募がありました。

次に、コロナワクチンの定期接種が始まります。松阪市ではインフルエンザワクチンは高齢者の場合、2,000円から打っていただくことが出来ます。コロナのワクチンが約7,000円かかると言われているので、インフルエンザと同じ割合でご負担いただこうと考えております。ただ、昨年秋に7回目を受けていただいた方は、高齢者でも半分に達していないので、有料となった時に、どれだけの方に接種いただけるかなと思っております。

福祉まるごと相談室は、全部で13か所を予定しておりまして、令和6年で10か所、令和7年に完了予定です。

松阪みんなの商品券については、昨年度の物価上昇率が平均で3.1%であり、生活の支援のための商品券事業を今年も7月から予定しております。

コロナも落ち着いてきましたので、観光促進事業にも力を入れていきます。特にインバウンドに軸足を置いていきたいと考えております。

次に、つい先日、特定地域づくり事業協同組合の設立総会を行い、立ち上げました。過疎地域で人材派遣事業を行っていきます。

珍しいところで市制20周年記念イベント推進事業というのをやります。令和7年1月1日で新松阪市になってちょうど20年になります。来年の1月1日から12月31日までの1年間で松阪市の発信や一体感をテーマに、イベント等、さまざまな事業展開をやっていこうと考えております。4月に選考委員を決めて、5月に事業募集を予定しております。その後、選考委員さんの一次審査、二次審査を経て、年度途中のいずれかの期間で補正予算をあげて、事業を行っていく予定です。今日のメンバーの皆さんにも是非、ご参加いただければと思います。

次に、コロナの影響による宅老所の縮小で、認知症カフェもそうですが、一旦活動が途絶えてしまいますと再開しにくいことが多いので、補助金など背中を押すようなことが出来ればと考えております。

電子契約、Jクレジット、カーボンニュートラル、DXに関わるものを取り入れていこうと考えて

おります。

次に【資料2】の市民意識調査ですが、「広報広聴について」赤の部分が昨年のデータになります。

「情報は主にどのような手段で入手していますか」では、圧倒的に「広報まつさか」が選ばれています。「毎月読んでいる」が36.7%で「だいたい読んでいる」と合わせますと6割近い数字になります。

「ホームページは見やすくなったか」については、「リニューアル前後、どちらかのホームページしか見たことがないのでわからない」の意見が一番多く、あまり見ていただけていないように思います。

「行政チャンネルを見ていただいているか」の質問では、「ほぼ毎日」「週1回」が4.8%で、高視聴率だと思えます。

「松阪ナビ」はアプリですが、それなりに認知されるようになってきました。発信して欲しい情報としては、イベント情報、防災情報といった形になります。

「シビックプライドを持っていますか」の質問では、「大変持っている」が9.3%、「まあまあ持っている」が50%、6割近くの方が持っているという結果になっております。また「大変持っている」「まあまあ持っている」という方に、松阪市のどんなところに愛着や誇りを持っているかを聞きますと、やはり第1位は「食事がおいしい」で、「自然が豊か」「歴史的な名所が多い」が続いています。

「地域社会で市民活動を支える仕組みについて」ですが、「地域課題を解決するための活動はどのような方法が有効か」をお聞きしましたら、「既存のボランティア活動や地域活動への参加」が1番多い結果となり、「わからない」、「地域活動をPRして拡大を図る」が順に続いております。

「企業等からの資金提供を通じて公益的・社会的な活動に参加・協力する仕組みが必要だと思いますか」の質問には、「そう思う」「ややそう思う」が半分を超えております。

「今までに、社会的課題解決を目的とした寄付や出資をしたことがありますか」については、「ない」という答えが半分近く占めております。

「寄附してもよいと考える金額」についてお聞きしますと、2000円未満が32.0%、次いで2000円以上5000円未満が22.2%という結果になりました。

次に「オンライン手続きを知っていますか」の質問に「知っている」「知らない」がほぼ半分、「オンラインで申請したことがあるか」については、「ある」が14.2%という結果が出ております。

「手続きのオンライン化を進めることにどう思うか」の質問には、「徐々に進めて欲しい」「もっと進めて欲しい」の順になっております。

「あなたのお住まいの地域づくりについて」では、「対価を支払うことで地域の活動を担っていただくことについてどう考えますか」の質問には、「賛成」が63.4%、「反対」が5.0%との回答で、対価を払って地域活動をやってもらうことは多くの方が「賛成」しております。

人権については、「男女の地位が平等になっていますか」の質問で1番多い答えは「どちらかといえば男性が優遇されている」が32.4%、「男性の方が優遇されている」が8.6%なので、4割以上の方から男性が優遇されているという結果が出ております。

「市のどの機関を知っていますか」の質問では、1番多かったのは「地域包括センター」で次いで「知らない」、「子育て世代包括支援センター」「生活相談支援センター」「福祉まるごと相談室」「障がい児・障がい者総合相談センター」となっております。

「地域の支えあいや地域活動が充実している地域だと思いますか」の質問に、「充実している」「ある程度充実している」が4割、「あまり充実していない」「充実していない」が4割、「どちらともいえない」が2割といった結果になっております。

「地域を支えあう活動でどのようなことが特に重要だと思いますか」の質問に対しては重複回答が多かったように思います。

「地域で支えあう活動に参加したいですか」の質問で1番多いのは「どちらともいえない」という結果でした。

「こども医療費助成の範囲を拡大することについて賛同するか」の質問には、かなりの皆さんから「賛同」いただいております。

「松阪市を観光地だと思いますか」の質問ですが、経年変化を見ていただくと、徐々に上がっては来ておりますので、もう少し上がるように頑張っていきたいと思えます。

「どこに向けてPRすれば良いか」については、「首都圏」が1位で、次いで「東海圏」「関西圏」の三大都市圏へPRしていくとのご意見が出ました。

「松阪市周辺のまちづくりで公民連携を進めることに賛同しますか」の質問に対しては、かなりの方から「賛同する」との回答をいただいております。

「地域包括ケアシステムとそれを支える医療提供体制について」では、「この動きを知っていますか」「回復期機能の不足が見込まれていることを知っていますか」の質問には、「聞いたことがあるがよくわからない」「聞いたこともなくわからない」といった回答が多く、「回復期機能を中心とする病院が必要だと思いますか」の質問には、「強くそう思う」「少しそう思う」など肯定的に捉えている方が 8 割いました。医療の話は専門的な話になるので、「よく知っている」と答える方は少ないように思います。

「放課後児童クラブを充実させていくべきか」の質問には「はい」が 84.5%といった結果になりました。

事務局)

続きまして、事務局より今日お配りさせていただいた「施策別重要度・満足度」についてご説明させていただきます。こちらは、第 27 回の市政推進会議で、管内別に調査をしてみたらどうかのご意見をいただきましたので、今回「住民自治協議会のブロック別」で調査を行いました。この資料は施策別に各ブロック、管内ごとの分布を表したもので、あまり大きな差異は見られませんでした。市民意識が特に表れているなど思いましたのは、4 ページの上の図「公共交通の充実」で、飯高管内の重要度は高く満足度が低い、公共交通が必要なエリアであることが分かります。8 ページの下図ですが、「保健・医療の推進」では、飯南・飯高管内の満足度が低く、お医者さんが少ないエリアでは、このように思っている意見が多いのではないかと思います。次に 14 ページの上の図、「林業の振興」ですが、飯高管内で圧倒的に重要度が高いといった結果になっております。15 ページの下図、「観光の振興」は南部ブロックの重要度が低いので、あまり重要とされていない結果となっております。

市長)

南部ブロックはどのあたりですか。

事務局)

大石、茅広江、射和あたりになります。

最後、19 ページの上の図、「中山間地域の振興」ですが、飯南・飯高ブロックの重要度が高いといった結果となっております。緑の線は各ブロックの平均値のラインになります。中心からズレているところが重要・重要でない、満足度の高い低いが分かるのかなと思ひまして、今回一緒に付けさせていただきました。

市長)

では、続きまして【資料 3】の適正な職員配置についてですが、1 つ目を見ていただくと、時間外勤務時間の 1 か月あたりの合計（上位 5 課）で市民税課、健康づくり課、こども未来課、土木課、学校支援課の 5 課が表になっております。これを見ると、市役所はいかに季節労働者であるかがよく分かります。特に市民税課は 1 月から 6 月までの時間外が急激に増えております。こども未来課も波が大きく、10 月にピークを迎えておりますが、来年度の 4 月の入園の申し込みの時期がちょうど、この時期に当たります。

次は、1 人あたりの時間外になります。学校支援課が非常に多く、次いで総務課、学校教育課、情報システム課、市政改革課の順になっております。

各所属の 1 か月あたりの時間外を出したものが、次のグラフになります。課で考えていくのも、1 人あたりで考えていくのも 1 つだとは思いますが、こういった形で出してみました。

以前、会長から適正な職員配置がされているのかどうかについて宿題をいただきまして、まずは単純に時間外を出したという流れになります。ざっくりとした説明ですが、令和 6 年度の事業と市民意識調査についてお示しをさせていただきましたので、よろしく願ひします。

会長)

それでは皆様のご意見を賜りたいと思ひますが、協議事項が 3 つありますので、どこからでも良いのでご発言を願ひします。

委員)

2 点ありまして、1 点目は、資料 1 の市民意識調査の年齢分布はだいたいどのぐらいの年齢の方

が何割ぐらい答えているのでしょうか。2点目については、7ページの「企業からの資金提供を通じて公益的・社会的な活動に参加、協力する仕組みが必要だと思いますか」の質問ですが、社会的活動に市民として参加したいのか、その原資は企業から出して欲しいといった意味なのかを教えてくださいましたらと思います。

事務局)

まず年齢分布についてですが、一番多いのが70歳以上で31%の方からご回答をいただいております。次いで60歳代が約20%、50歳代が約18%、40歳代が約14%、20代～30代は6～7%、10代は約3%で年齢が若くなるほど、回答率は低くなっています。

委員)

答えを聞いていましたら、何となく、そんな気がしました。子育て世代に注力されているのであれば、その世代の声を注力するようなアンケートを取ると良いと思います。

事務局)

2点目は、社会課題について、企業・団体の活動を通じて解決しようとする取組が増えてきているので、こういった仕組みを作る必要があるかという意図で質問をしております。

委員)

松阪市の社会問題の解決に、企業が積極的に参加をした方がいいと思うかという質問ですね。

事務局)

はい、いろんな選択肢がありますが、この質問では必要かどうかについてお聞きしております。

委員)

「住民が参加する」のではなく「企業が参加すべきか」という質問ですね。

事務局)

企業だけではなく、例えば既存のボランティア活動・地域活動への参加や、社会貢献活動をしている団体への寄附など、いろんな貢献の方法がありますが、この問いについては「企業が」ということになります。

委員)

企業の社会活動の参加推進すべきかという意味ですね。

委員)

これは例えば民間の知恵とか資金を、市自体が活用していこうという前提のもとで聞いているのですか。

市長)

質問を見ていただくのが1番早いと思いますので、質問文を読みます。

「今後、人口減少や高齢化が進むと、市民生活や産業、市の財政などに様々な影響が及ぶことが懸念されます。その場合、行政が現在担っていることを税金だけで解決していくのは難しくなる可能性があります。このため、行政だけでは対応できない日常の社会課題を、企業や団体等の活動を通じて解決しようとする「社会的課題解決」の取組例も増えてきています。」というのが前提で、「あなたが、もし地域の課題を解決するために何らかの活動をしようとする場合、どのような方法が効果的だと考えますか。」というのが1つ目の質問になります。

問2が先程、委員がおっしゃられた質問になりますが、その前に、「松阪市では、今年度、市民や企業等による寄附や投資により、社会貢献活動を行っている団体などを支援することで、地域の様々な課題を解決する仕組みを作ることができないか検討しています」という前提があり、「企業からの資金提供を通じて公益的・社会的な活動に参加、協力する仕組みが必要だと思いますか」の質問に続きます。

その次に「あなたは、今までに、社会的課題解決（例：災害復興支援、こども食堂の支援、環境保全活動など）を目的とした寄附や出資をしたことがありますか。」といったことをお聞きしたの

が、先程の集計表になります。公民連携のような形で、皆さんから資金提供を受けて、行政と一緒に社会課題を解決しているところへの補助、成功報酬型の支援などの活動が広がってきているので、そのような目的でお聞きしました。

委員)

市の側の社会的インパクト投資のようなことを考えているということが前提ですね。

委員)

例えばマラソンに寄附をすることもそうなのでしょうか。

市長)

こども食堂や災害支援など社会問題の解決活動になります。

委員)

社会課題解決を目的とした企業も増えてきているので、そこと市がタッグを組むということですか。

市長)

そういうことです。

委員)

先程、委員がおっしゃっていたように、社会課題の解決を民間の資金でということで、インパクト投資が増えてきておりますが、言葉としてはありますが、大々的にはやっております。特に若い人を中心にベンチャーを立ち上げて、そこに対して企業が支援を行っています。その目的としてあるのが、単純にベンチャーとしてのリターンではなく、社会活動解決をもう一つの指標としてやっているところが結構あります。アメリカはもう少し進んでいて、インパクトという言葉は使わず、ウェルビーイング投資という表現を使っています。

市長)

社会活動の中で、行政が手を出しづらい分野がありまして、例によく出すのが婚活で、生き方の選択なので、全国的にもやっている自治体は少ないと思います。ただ若者定住の観点から考えると、婚活はあった方がよいと思います。またこども食堂についても、支援している自治体はたくさんありますが、団体の活動としては月1回、多くても2回程度であり、それだけではご飯が足りないもので、どうしても生活困窮家庭への支援になってしまいがちです。行政としては入りにくい事業ですが、今や民間のコミュニティビジネス的なものや、支援団体に対して、このレベルまでやれば補助金を出すなど、そういった形が増えて来ています。もし上手くいくのであれば、この地域でもやっていきたいという前提でこの質問が出来上がりました。

委員)

2点ありまして、先程、委員もおっしゃったように、行政サービスを若手世代にどうやって浸透させるのか、また「松阪の情報をどうやって入手しますか」の質問で「広報まつさか」とありましたが、子育て世代も対象に入っているのでしょうか。

市長)

入っていますが、少ないと思います。

委員)

このアンケートの結果が、70%が50歳以下なので、40歳以下の方に行政サービスをどうやって届けるかは工夫が必要なのかなと思います。

もう1つは、施策別重要度を見ていて思ったのですが、縦のマス目の重要度が4以上かつ満足度3以下のものは何かを見ましたら、2ページの上の「交通安全対策」、その次のページの「公共交通の充実」これも2.5以下で満足度が一番低い、その割には重要度が高いので、この部分は何か施策が必要なのかなと思います。このアンケートの資料でも、11ページの一番下の円グラフの「病院やスーパーなどの移動支援」に該当するのかなと思いますので、予算には入っていませんが、考えるべき施策があるのかなと思います。

市長)

子育て世代専用でアンケート取っています。計画策定時に合わせて3,000人規模のアンケートを行い、それに基づいて、こども子育て政策・施策に反映をしています

あらゆるアンケートを取ると、松阪の場合、重要度が高く満足度が低いのが「公共交通」「交通安全」で、先程の表で言いますと特に飯高管内が低いという結果が出ておりますが、ようやく今年の4月から、飯高管内のコミュニティ交通を全面的に変更しました。それを考えることで、満足度が増えるのではないかと考えています。松阪市の面積は623km²で、市の中ではかなり大きい方で、飯高は松阪市の4割を占めていますが、住んでいる人は3,000人を切っております。特に高齢化が進んでいるので、路線バスと協議をしながら、公共交通を全面的にやり替えようということで始めました。市内の公共交通に対する期待は非常に大きく、前回の市民意識調査で公共交通についてお聞きしましたら、多くの方がタクシー利用を希望されました。バスの停留所まで歩いては行けない方が増えており、一部地域ではデマンドタクシーを始めております。これが上手くいけば全市に広がっていかうと考えていたのですが、1回乗るのに300円、平均で2000円弱かかり、元々の想定は、乗り合いタクシーのような形で運行する予定でしたが、ほぼ個人事業のような状態になってしまい、市内のタクシー業者4社とも利用を可能にしたことが問題だったのではないかなと思います。

来年度からは試行錯誤しながら、それを考えていこうと考えています。

委員)

久居でやろうとして失敗している例もあります。

委員)

ハードルが高く簡単ではないかもしれませんが、飯高の地域とかでウーバーが出来ると良いなと思います。

委員)

顔が見えないと信用してもらえないという状況もあるので、顔が見える人がやれば安心して使うようになると思います。

委員)

公共交通についてですが、松阪に来て 12 年になり、ノーマイカーで過ごしています。交通弱者の気持ちが非常によく分かりますので、バス会社のタイムスケジュールについて要望したこともあります。子育て支援の観点から言いますと、保護者にとって塾の送迎が 1 番困ることで、非常に忙しい時間帯に送迎をしないといけない、塾の前でずっと待っている必要があるなど、大変苦労されているのが現状です。子育てをやり終えた経験をお持ちの方が、こどもが巣立ってやりがいがなくなったという話を聞きますが、例えば送迎や準保育士の立場で子育てを応援していただくなど、役割を循環していくような仕組みが出来ないかなと考えております。例えば PR 市民、子育て部隊の応援市民など、登録制にしてやっていけないかなと思いました。

婚活についてですが、他の自治体がやっていなかったら、むしろチャレンジするべきだと思います。婚活そのものでいきますと、考え方や価値観の問題が出てくるとと思いますが、観光と繋げていく、例えば万博に発信して、「松阪縁結び」など、松坂城にはハートの石もありますので、伊勢と一緒に盛り上げたらどうかと思います。

委員)

万博はツーリズムがテーマになっていますが、それに対して何か施策はありますか。

市長)

万博は県主体で、特別にやりたい市は申し出る形になっています。三重県がブースを持ち、それが各市に割り当てられます。

委員)

発信のチャンスだと思います。インバウンドもそこで繋がるかもしれないです。

委員)

松阪市のインバウンド情報は分かるのですか。

市長)

あまり分かっていません。コロナ前は、駅前の観光センターへ来ていただいた外国の方のカウンターで数えていましたが、最近は翻訳機が発達したことにより、観光センターに行く必要がないので、統計ではコロナ前と比べると半分になっております。

委員)

鳥羽はコロナ前を超えたそうです。

委員)

想像以上にみんな同じところに集まりますね。これは恐らく施策が一定程度同じ効果を示しているということですね。あまり地域差がなく、これはどのように評価をしたら良いかを教えていただくかなと、これは意図していたのですか。

市長)

地域別にこのマトリックス表を出したら、プロット点が変わるので、地域によって違っていました。

委員)

中間結果を拝見しての提案ですが、2 ページ目の広報全般について、子育て世代の皆さんへの PR をどうするかですが、行政チャンネルや LINE、動画でリンク出来ないか、見てもらうためのアクションをする、例えば今月の広報まつさかの〇ページ、これは注目という形でトピックを作り、興味深いイベントがあればクローズアップするとか、いろんなメディアにリンクするというのはいかがでしょうか。

市長)

それはどうやってやるのですか。

委員)

この間、ライトアップのイベントがありましたが、美しさやデートスポット的な形で紹介するのであれば、インスタのリー플で暖まるスポットを紹介するなど、ページはアナログで気づかないイベント情報もあるので、ピックアップしていくような取組をしてみてもどうかと思います。行政チャンネルを見てもらうためにもリンク、リンクで全部繋がっているような形でまずチャレンジしてみてもどうかというアイデアです。

委員)

行政の LINE は始められていないのですか。

市長)

行政 LINE はやっていません。インスタ、フェイスブック、あと X があります。

委員)

認知性を高めるには、委員の言われているやり方であれば、LINE は見ますよね。

市長)

松阪市には松阪ナビというアプリがあり、16 万人中で、アプリを入れてもらっているのは3 万人弱ぐらいで、赤ちゃんが生まれると母子手帳の代わりにデジタルで入れているので、子育て世代の方には結構入れていただいています。

委員)

便利ですが、登録してもらうまでが大変でハードルがあります。例えば市民活動センターで LINE の登録と併せてやっていただければお得といった取組をどんどんしていった方が良いと思います。LINE は必須です。

委員)

通知が来れば見ますし、広報まつさかに QR コードを載せれば良いと思います。

松阪市は全国統一テストの成績があがったという記事を見ましたが、素晴らしいことをやっているのもっと宣伝した方が良いと思います。若い人たちにどのように市の政策が受け入れられていくか注力しても良いのかなと思います。

市長)

学力テストの点数に一喜一憂することはないですが、教育レベルをいかに上げるかは昔から考えられていることです。子育ての政策はいろいろありますが、学力の保障はとても大事なことで、まずは学力向上をめざして、プロジェクトチームを作り、いろんなアイデアを出し合って取り組んできました。ある時、防災協定を結んでいる大東市の市長から、「松阪はどうして短期間で学力が上がったのか、その秘密を教えて欲しい」と言われましたので教育委員会を紹介しました。

委員)

久しぶりにこの地域の記事で感動しました。

委員)

民間の知恵とか民間の企業のところに、教育ってもっと必要だろうなと思いました。

子どもが地域に対して働きかけて貢献して上手くいっているケースは多く、子どもも大人も成長します。教育機関と地域が連動して、地域が活性化に寄与していることも多く、今までは教育と企業と行政がバラバラに動いていたのが、一体となって1つの目的に向かって進んでいくケースが成功し、新しい産業を生み出したりしています。

市長)

来年度、コミュニティスクールが出来上がります。地域と学校が、かなり一体的に学校運営に関わっていきますが、地域運営とは違い、地域が学校経営自体に関わっていくイメージに近いのかなと思います。

委員)

コミュニティスクールで何をするかというところで、課外授業を取り入れるのはどうでしょう。地域づくり・まちづくりに興味のある人口を増やす、子育て世代だけでなく子ども達にシビックプライドを持っていただくというアクションが必要だと思います。市外のまちづくりの優良事例を自分達に置き換えて、松阪市であればどうしたら良くなるだろう、という考え方に変えていければ良いなと思います。また親子まちづくりプロジェクトを作り、それに賛同する親子やまちづくりについて学びたいという若者が入って、企業やまちづくりの窓口を見に行き話を聞いて、自分のまちには何が必要かを考える取組をしてみてはどうかと思います。

委員)

今日の議題は難しいように思います。提案として、市の中に市民支援課を作って、それぞれの担当と市民がコラボをする、例えば募集をかけて、松阪市と市民がコラボの中で1つのグループを作り、子ども支援・料理・運転・防災などを市民支援課の中に置いて、松阪市民がアルバイトをしたい時に振り分けるベースを作り、市民と市のコラボの仕組みを作ってみてはどうでしょうか。市役所というビッグネームがあると信用があるので、市民が自由に参加できるようなシステムを作ったら良いのではないかと思います。人それぞれ地域や考え方は異なり、満足度を上げるのは無理な話なので、自分達が参加しながらアルバイトをすれば活性化出来るのではないかと思います。

会長)

委員に賛成で市役所が市民とするのは難しいので、担当課を置いて、市役所と市民の活動の間に立つという位置づけが良いのではないかと思います。

委員)

看板に「松阪市」がついていれば市民の理解が得られやすいと思います。熱心な市民の方もたくさんいらっしゃるので、そういった観点を利用して、システムを作れば何をすべきか見えてくるのではないかと思います。

委員)

令和5年から指定管理をさせていただいて、有償ボランティア的なことも、少し雇用が出来るようになってきましたので、皆さんにお声がけをさせていただき、料理や孫育てなど11人の方々に集まっていただきました。行事によって異なりますが、月2~3回一緒に歩んでいただいております。

市長もおっしゃっていた託老ですが、17 あった託老が3つなくなってしまい、また復活してあげたいと思いますが、いろんなサービスがあり、申請や実績報告が大変だと聞くので、うちで請け負って一緒に書かせてもらったりしています。

居場所づくりの長期休暇のところで、山室はワークセンターだったと思いますが、その時に、ある程度の期間を超えないと受け入れてもらえないとお声がありましたので、単発でうちでさせていただきます。施策が決まりましたら、こちらにもお声がけをいただくと、単発で良いというニーズにもお答えできるのかなと思います。

委員)

長期休暇についてですが、親は行かせたいが、子どもが団体の生活が苦手な特性があって家でみているご家庭もあると聞きますので、そういったところも取りこぼさない支援をお願いしたいと思います。

委員)

去年、土日限定でやりました。

市長)

結局、預かるとなると誰かを置かなければならないので難しい部分があります。

委員)

例えば第一公民館など職員がいるところで預かっていただくことは出来ないでしょうか。

会長)

行政としては難しいですね。

市長)

長期休みとなると、3か所で180人募集、1番少ないところでも40人程度になるので、どうしても集団生活になってしまいます。来年は今年以上に増えるのではないかなと思っています。

委員)

毎日に行きたくない子どももいると思います。

会長)

私からも1つ、適正な職員配置についてですが、時間外の動向を詳しく調べられたことはとても良いことだと思います。次のステップとしては、時間外がどんなことで発生しているのか、それだけの仕事をしなければいけない状況をどうやって改善していくか、仕事の中身を分析していく手順

になるかと思いますが、ここで気を付けなければいけないのが、最近の風潮として、時間外が悪のようなイメージになっているので、頑張って仕事をしていることをまず褒めて、必要以上にメンタルにプレッシャーがかからないようにだけお願いします。

他に何かありますか。ないようでしたら今日の会議は終わりたいと思います。

《午後 5 時 00 分終了》